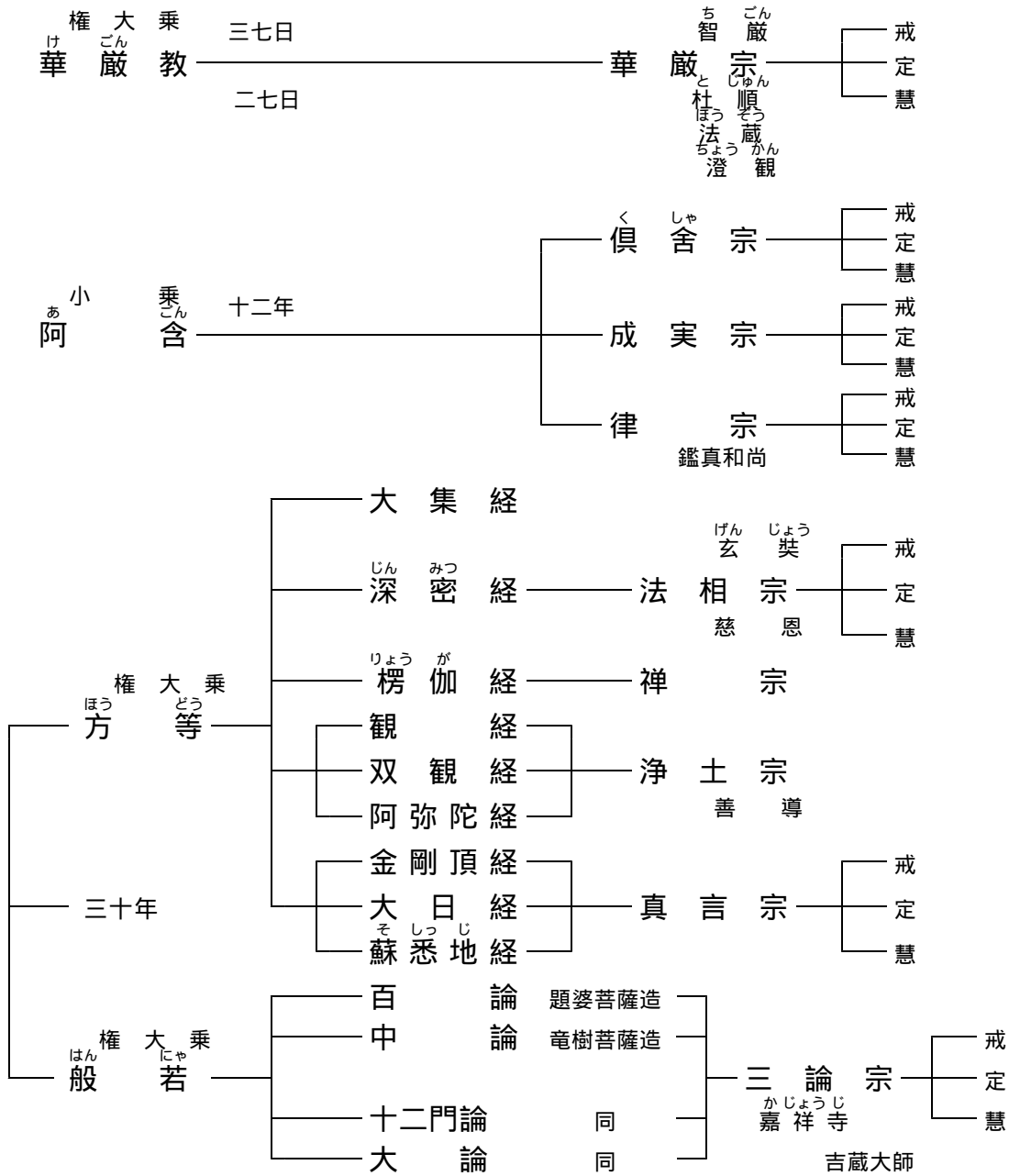


一代五時図

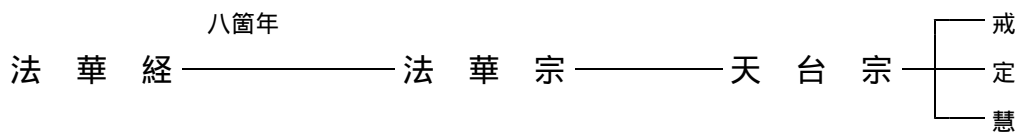
文永八年

五〇歳

大論に云はく「十九出家三十成道」と。

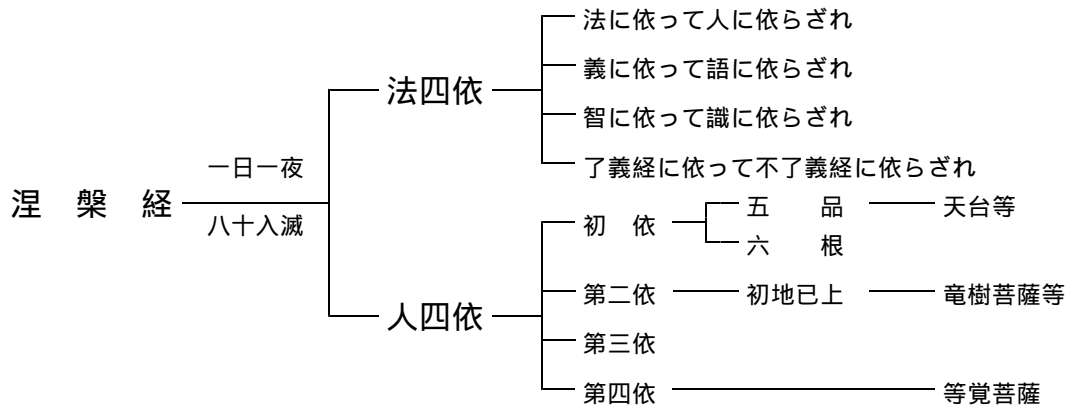


無量義經に云はく「方便力を以て四十余年には未だ真実を顕はさず」と。又云はく「無量無辺不可思議阿僧祇劫を過ぐれども終に無上菩提を成ずることを得ず。所以は何。菩提の大直道を知らざるが故に。險徑を行くに留難多きが故に」と。又云はく「大直道を行くに留難無きが故に」と。

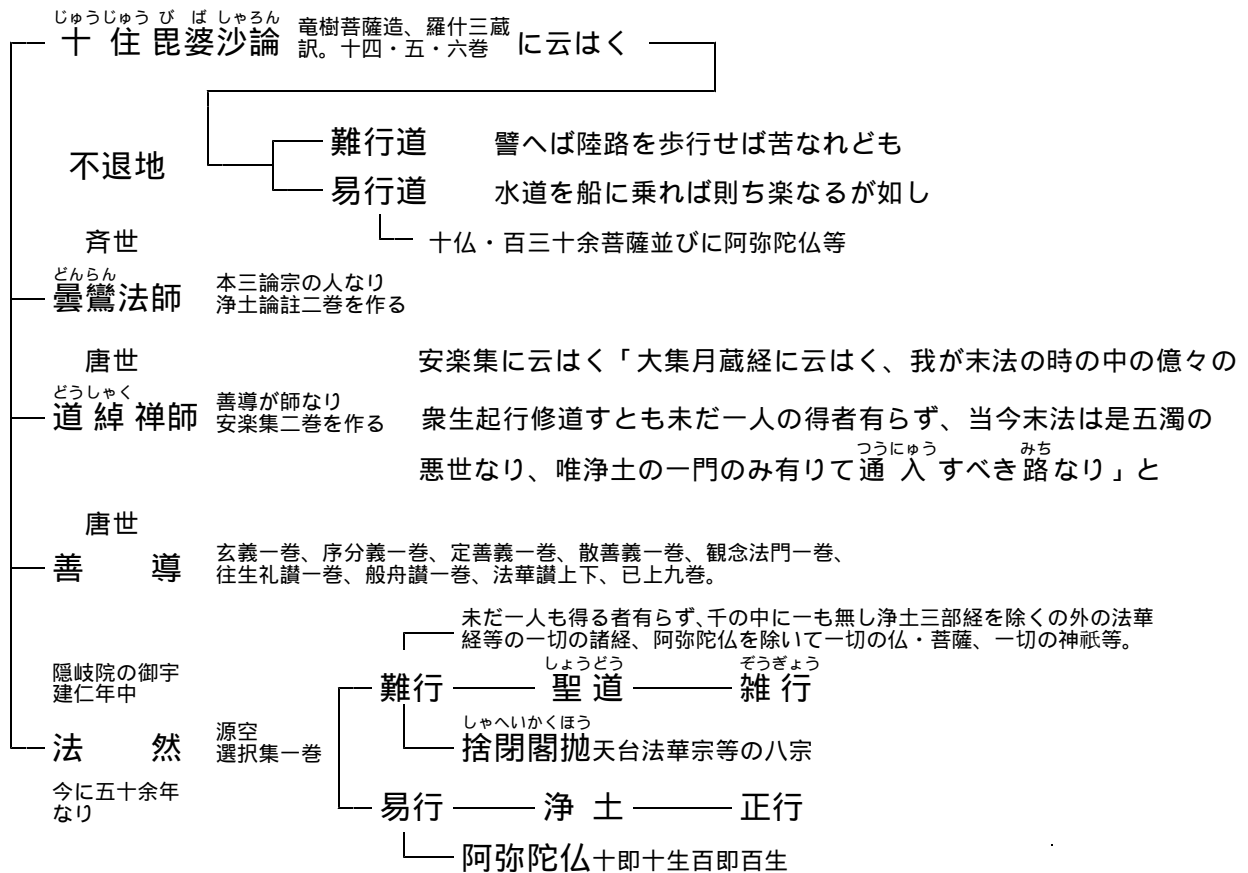


「世尊は法久しくして後かなら要かならず当に真実を説きたまふべし。種々の道を示すと雖も其れ実には仏乗の為なり。正直に方便を捨て、但無上道を説く。今此の三界は皆是我が有うなり、其の中の衆生は悉く是我が子なり、而も今此の処は諸の患難多し、唯我一人のみ能く救護なを為す、復教きょうしよ詔しよすと雖も而も信受せず。若し人信ぜずして此の経を毀謗きぼうせば、則ち一切世間の仏種を断ぜん 其の人命終して阿鼻獄に入らん。將に魔の仏と作りて我が心を悩乱するに非ずや」舍利弗の疑ひ、二の巻。 「妙法華經 皆是真実なり」多宝証明の文。

涅槃經六に出づ



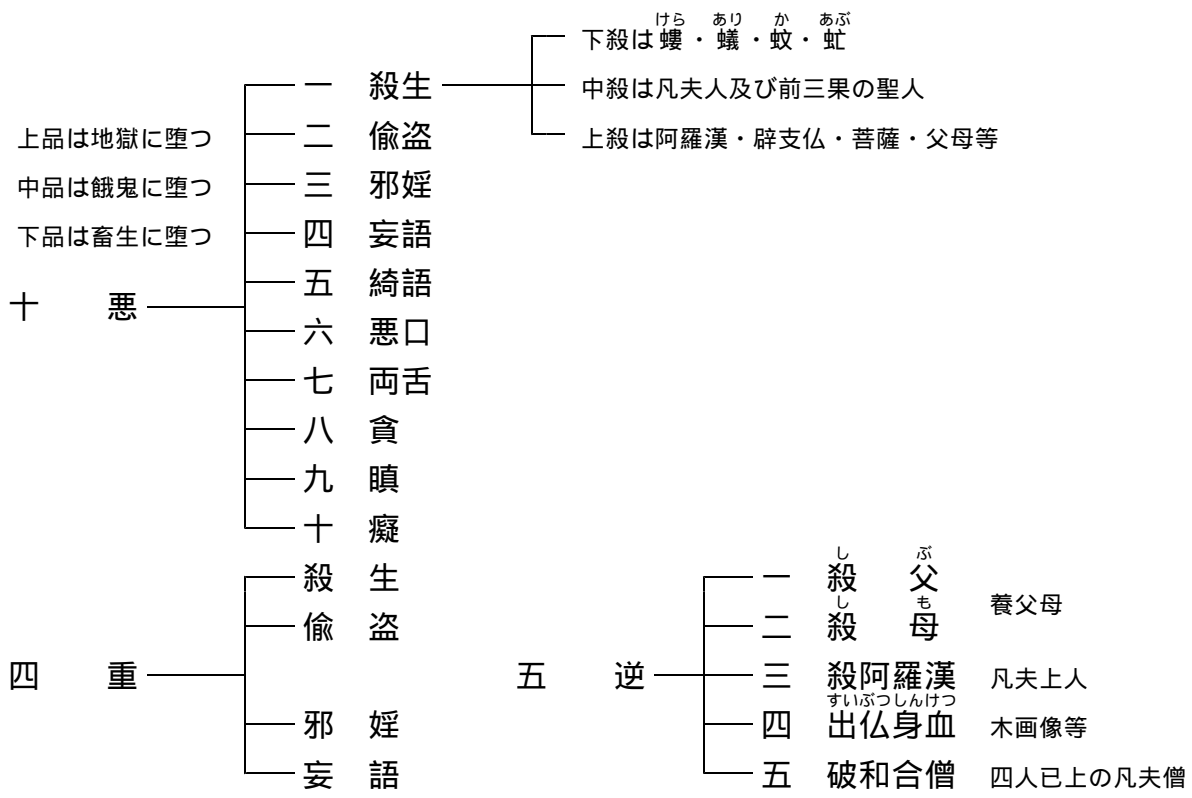
天竺



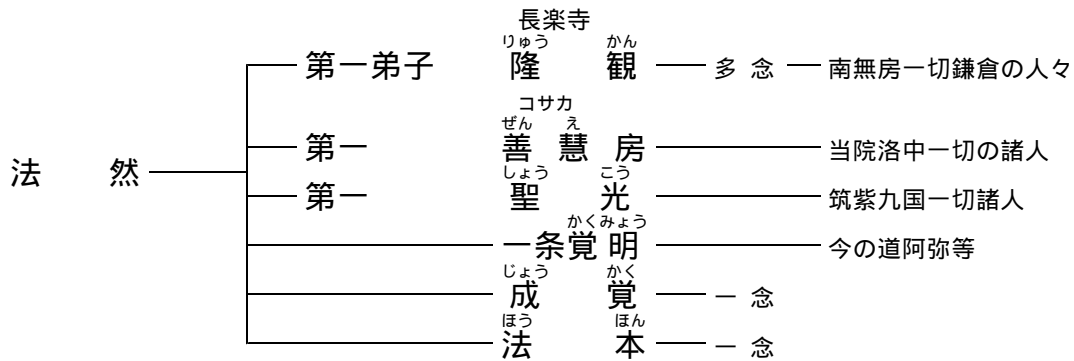
六百三十七部二千八百八十三卷

捨閉閣拋

双観經に云はく「^た設^えひ我^え仏^えを得^えんに、十方の衆生至心に信樂し、我が国に生まれんと欲し、乃至十念して若し生ぜずんば正覺を取らず、唯五逆と誹謗正法とを除く」と。道綽が未有一人得者、善導が一千中無一、法然が捨閉閣拋、此等は豈謗法に非ずや。法華經第二譬喩品に云はく「若し人信ぜずして此の經を毀謗せば、則ち一切世間の仏種を断ぜん。或は復讐^{ひんじゆく} 覺^いして疑惑^いを懷^いかん。汝^か当^かに此^かの人の罪報^{けつこん}を説^かくを聴^かくべし。若しは仏の在世、若しは滅度の後に、其れ斯くの如く經典を誹謗すること有らん、經を誦誦し書持すること有らん者を見て、輕賤憎嫉^{きようせんぞうしつ}して而も結恨^{けつこん}を懷^かかん。此^かの人の罪報^{また}汝^{また}今復聴^{また}け。其^{また}の人命終して阿鼻獄に入らん。一劫を具足して劫尽きなば更生^{また}生まれん。是^{また}くの如^{また}く展轉^{てんでん}して無^{また}数劫^{また}に至らん。地獄より出でては當^{また}に畜生^{ねはん}に墮^{また}つべし」と。涅槃經第十に云はく「問^うふ、一闍提^{せんたい}とは其^いの義^い如何^い。仏言^いはく、純陀^{じゆんた}若^{びく}し比丘^う及^ばび比丘尼^う・優婆塞^う・優婆夷^う有^そりて麤^う惡^いの言^いを発^いし、正法^{せい}を誹謗^いし、是^いの重業^{じゆうごう}を造^いりて永^かく改悔^{かい}せず、心^いに慚愧^{ざんき}無^いからん。是^いくの如^いき等^いの人^いを名^いづけて一闍提^{しゆうごう}の道^いに趣向^なすと為^いす。若^いし四重^{しじゆう}を犯^いし、五逆罪^{ごい}を作^いり、自^いら定^いめて是^いくの如^いき重事^{じゆうじ}を犯^いすと知^いりて、而^いも心^いに初^いめより怖畏^{ふい}慚愧^あ無^いく、肯^いへて発露^{はつろ}せず。彼^いの正法^{せい}に於^いて永^いく護^い惜^ご建立^ごの心^い無^いく、毀^い些^い輕賤^{きし}して言^いに過咎^か多^いからん。是^いくの如^いき等^いの人^いも亦^い一闍提^{せんたい}の道^いに趣向^なすと名^いづく。若^いし復説^{ふく}いて仏法^{ぶつ}衆^{しゆう}無^いしと言^いはん。是^いくの如^いき等^いの人^いも亦^い一闍提^{せんたい}の道^いに趣向^なすと名^いづく。唯^い此^いくの如^いき一闍提^{せんたい}の輩^いを除^いきて其^いの余^いに施^いさば一切^い讚歎^いすべし」と。



此等は皆一業引一生なり。故に一度悪道に墮すれば還って二度悪道に墮せず。謗法は一業引多生なれば、一度三宝を破すれば度々悪道に墮するなり。伝教大師の守護章に云はく「不正義の一切学人は信受すべからず。所以は何。其の師の墮つる所弟子も亦墮ち、檀那も亦墮つ、金口の明説、何ぞ慎まざるべけんや、慎まざるべけんや」と。



已上弟子八十余入

乃至日本国は一切の念仏者並びに檀那等。又一切の天台・真言等の諸宗の人々、又法然が智分を出でず。各々其の宗をば習へども心は皆一同に念仏者なり。法華經を読めども、真言を行ずれども、皆助業と為して念仏を以て正業と為す。謗法の失脱るべからず。